

小山田小

2025年1月8日

9号

町田市立小山田小学校

校長 小澤 新也

042(797)1824

<https://machida.schoolweb.ne.jp/1310200>

あけましておめでとうございます

2025年が子どもたちや皆様にとって幸せな1年となりますように

校長 小澤 新也

暮れの12月24日に全校餅つき大会を行いました。毎年5年生が地域の方にお借りした田んぼで育てているもち米を使った活動です。これまでは、5年生の総合的な学習の一環として取り組んできました。地域や保護者の方にはたくさんのご協力をいただきながらも、餅つきにかかわる教員の数も限られ、より多くの教員がかかわる持続可能なやり方を模索してきました。

2年生が生活科で、こちらでも地域の方にお借りした畑で野菜の栽培活動をしています。1学期は夏野菜を育てましたが、2学期早々に大根を植え、餅つきの時に辛味餅として使ってもらうことにしました。

3年生は国語に「すがたをかえる大豆」という文章があります。大豆は、いろいろな加工食品として私たちの食生活を支えています。本文には「こなにひいて食べるくふう」としてきな粉も登場します。3年生はお借りしている畑で大豆を栽培し、きな粉をつくる計画を立てました。(残念ながら収穫はできませんでしたが)

小山田小の田んぼは鶴見川の水を使っています。4年生は鶴見川について学習します。鶴見川は、小山田小の学区に水源があります。最初の一滴から東京湾に注ぎ込むまでを追いかけます。様々な治水対策の成果で、かつてたびたび氾濫を起こした暴れ川の面影は影を潜めました。鶴見川の豊かな水の恩恵を感じています。

6年生は昨年、米作りと餅つきを体験しました。その経験を生かして、全校の子どもたちにつきたての餅を食べてもらうべく、5年生と一緒に餅つきにかかわる作業を進めました。1年生の役割は、おいしいお餅と高学年の姿を心に留めることです。

小山田小学校の歴史が綴られた学校沿革史を見てみると、昭和49(1974)年、今からちょうど50年前に、全校餅つき大会をした記録が残っていました。第7代内田太郎校長先生の時です。全校餅つき大会はそこから10年間続きますが、昭和59(1984)年を最後に、餅つき大会そのものもなくなりました。

その後餅つきは、平成19(2007)年第15代西岡郁雄校長先生の時に、5年生の行事として復活し、今に至ります。そして令和6(2024)年、40年ぶりに全校行事として、餅つき大会が復活しました。小山田学習の一環として、多くの子どもたちと教職員がかかわり、今年の餅つき大会を全校行事とすることにしました。

学習指導要領の改訂、教員の働き方改革、地域や保護者の変化など、教育を取り巻く状況は大きな転換点を迎えています。学校行事は縮小傾向にあります。しかし、この地に学校があること、教育活動を通して、学校と地域が結び付きを大切にすること、そして何より、子どもたちが行事を通して心豊かに成長することを願って、この全校餅つき大会を行いました。2025年も小山田小学校は走り続けます。

引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

